

□×25＝25点

①	30,000（円）
②	<input checked="" type="radio"/> 借方差異 <input type="radio"/> 貸方差異（適切な方を○で囲む）
③	100,000（円）
④	管理可能差異 <input type="radio"/> 管理不能差異 <input type="radio"/> 純粋価格差異 <input checked="" type="radio"/> 混合差異（適切なものを1つで囲む）
⑤	20,000（円）
⑥	5,200（円）
⑦	0.05（時間）
⑧	600（円）
⑨	120,000（円）
⑩	20,000（円）
⑪	100,000（円）
⑫	<input checked="" type="radio"/> 予算 <input type="radio"/> 能率 <input type="radio"/> 操業度（適切なものを1つ○で囲む） 別解：操業度 ※
⑬	2,000（個）
⑭	4,000（円）
⑮	7,200,000（円）
⑯	10,000（円）
⑰	350,000（円）
⑱	<input checked="" type="radio"/> 変動費のみの配賦率 <input type="radio"/> 変動費と固定費と合わせた配賦率（適切な方を○で囲む）
⑲	90,000（円）
⑳	500,000（円）
㉑	36,000（円）
㉒	<input type="radio"/> 借方差異 <input checked="" type="radio"/> 貸方差異（適切な方を○で囲む）
㉓	104,000（円）
㉔	<input checked="" type="radio"/> 借方差異 <input type="radio"/> 貸方差異（適切な方を○で囲む）
㉕	82.5（%）

※ 問題文の記述から、製造間接費については、「固定費が存在するので、標準原価計算では管理を行うことができず、予算管理が必要である」というのが作問者の考え方です。だとすれば、原価管理上意味のある差異として㉒に入る語句は「予算」差異になるはずですが、多くの専門学校が㉒を「操業度」差異としているので、別解として示しておきます。専門学校によって、解答が別れる問題は良問とはいえないので、㉒について、受験生は悩まず、他の解答箇所を復習しておけば大丈夫です。

第1問 8点

問1 計画営業利益  ③

問2 1人当たり受講料が  を超える必要がある ③

問3 受講者数  のときが最も有利であり ①×2  
 その時の計画営業利益は  となる。

第2問 17点

問1 5点

(単位：千円)

	F 事業部	W 事業部
売上高	( <span style="color: red;">①</span> 60,000 )	( 45,000 )
変動費	( 16,000 )	( 10,000 )
貢献利益	( 44,000 )	( <span style="color: red;">①</span> 35,000 )
管理可能固定費	( 33,600 )	( 25,500 )
管理可能利益	( <span style="color: red;">①</span> 10,400 )	( <span style="color: red;">①</span> 9,500 )
管理不能固定費	( 2,600 )	( 2,100 )
事業部利益	( <span style="color: red;">①</span> 7,800 )	( 7,400 )

問2 2点 加重平均資本コスト率  ②

問3 4点 投下資本利益率 F 事業部  ① W 事業部  ①

残余利益 F 事業部  ① W 事業部  ①

問4 6点

①	9.24 %	②	3,179 千円	<span style="color: red;">②×2</span>
③	採用する	・	<input checked="" type="radio"/> 採用しない	適当な方を○で囲むこと <span style="color: red;">①</span>
④	<input checked="" type="radio"/> 採用する	・	採用しない	適当な方を○で囲むこと <span style="color: red;">①</span>